



社会福祉士の視点を忘れず、
市民に寄り添った
丁寧な仕事をしたい。

事務職（社会福祉士）

健康福祉部
地域包括ケア推進室

本山 和人（もとやま かずと）

令和2年度入庁

所属の業務内容と現在担当されている業務について、教えてください。

健康長寿課地域包括ケア推進室は、高齢者が住み慣れた地域で、可能な限り、その人らしい生活を続けるために、医療・介護・介護予防及び生活支援が包括的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向けた事業を行っています。その中で、私は高齢者支援センター（地域包括支援センター）に関する業務を担当しています。市民の相談対応、地域ケア会議等の運営、権利擁護関連の業務にも関わっています。

業務の中で、印象に残っていることは？

環境の変化にチームとして対応し続けていることです。令和2年に入庁して以来、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、それまで当然できていたことが難しい状況が度々ありました。会議や研修など「集まる」ことが難しくなり、オンラインで実施する環境を整えました。また、地域活動を自粛せざるを得ない状況を考慮した委託先の事業評価の見直しを行う等、現在も目的を果たすため様々な改善や工夫を続けています。



倉敷市を志望した理由について教えてください。

倉敷市真備町は、平成30年7月の西日本豪雨災害で甚大な被害を受け、私自身も生活に大きな影響がありました。避難所や生活支援で倉敷市職員や自衛隊、医療福祉の関係者が多数活躍する姿に「多くの方が真備（倉敷）のために働いてくださり、本当にありがたい」と感謝しました。自分も可能な限り、学校や保育園などの活動に積極的に協力する中で、自分の住む倉敷市で「福祉」を通じて貢献したい、家族や市民のために、自分が努力し、住みよい町にしていきたい、そのような思いが強くなり倉敷市で働くことを志望しました。

倉敷市職員を目指す皆さんにメッセージをお願いします。

私が入庁して思うことは、「経験を活かし、学び続けることが大切」ということです。職務経験者として採用された社会福祉士も多く、庁内の会議で会うと「自分も職務経験者枠だよ」と優しく声をかけてくださる先輩も大勢います。福祉分野において、行政の役割の重要性は、社会福祉士である皆さんが誰よりも感じていると思います。倉敷市職員として、福祉施策に取り組むことは、やりがいのある仕事です。共に仕事ができることを楽しみにしています。